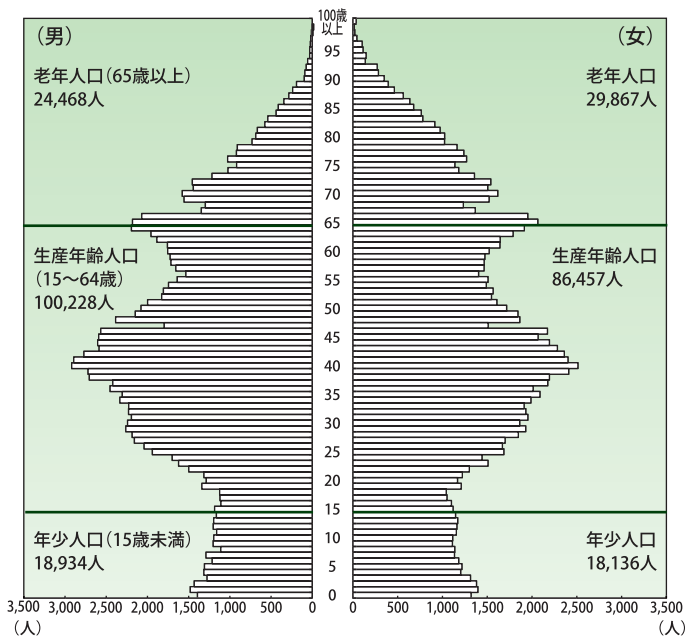


年齢別人口の状況

鶴見区人口ピラミッド (H26.1.1現在)



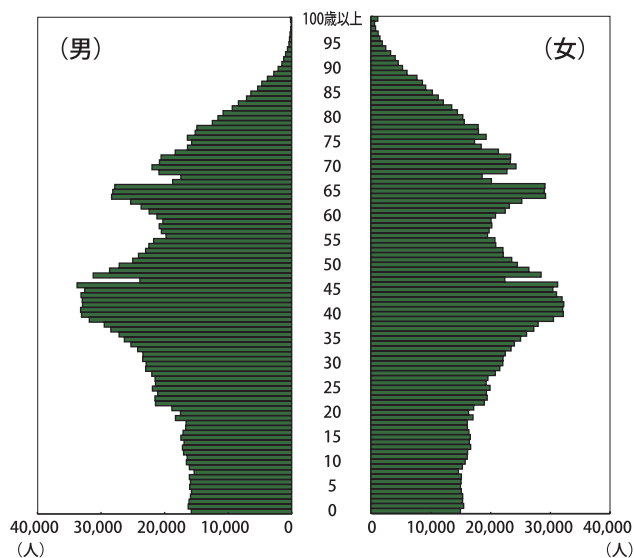
鶴見区の人口ピラミッドには大きく2つの特徴があります。

- ①40～41歳前後の第二次ベビーブーム時期の人口が、65歳前後の第一次ベビーブーム時期の人口より大きな山を描いています。
- ②0～10歳までの人口が増加しており、ピラミッドの裾野が全国及び横浜市のピラミッドに比べて広がっています。

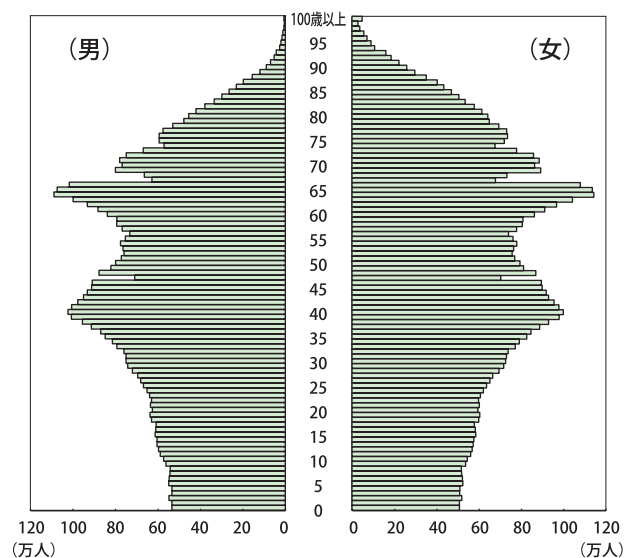


鶴見区は年少人口が増加の傾向にあるんだね!

横浜市人口ピラミッド (H26.1.1現在)



全国人口ピラミッド (H25.10.1現在)



行政区別平均年齢 (H26.1.1現在)

鶴見区の平均年齢は、平成26年1月1日現在43.04歳で、これは18区中、4番目に若い値です。市内で最も平均年齢が低い区は、都筑区で40.11歳、一方高い区は、旭区で46.63歳となっています。

★平均年齢が低い区 BEST4★

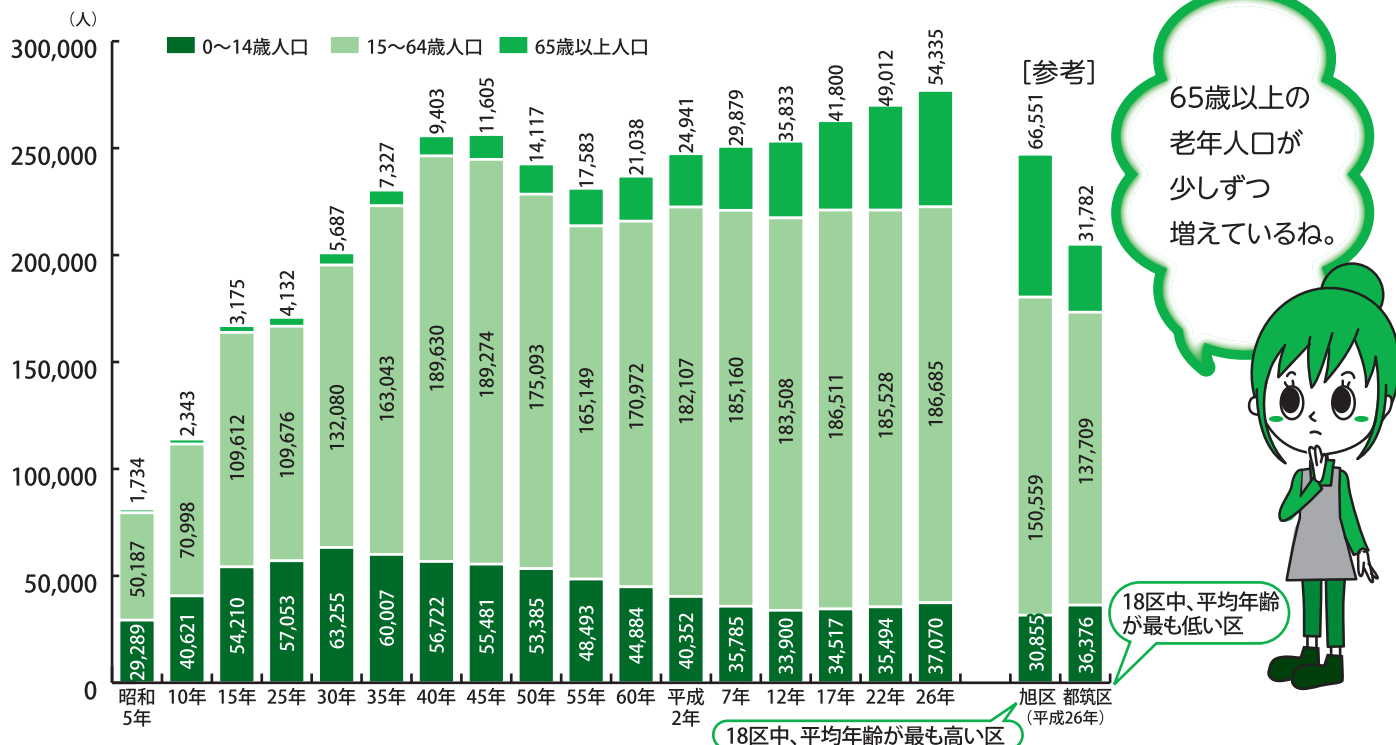
1位	都筑区 (40.11歳)
2位	港北区 (42.40歳)
3位	青葉区 (42.43歳)
4位	鶴見区 (43.04歳)

★平均年齢が高い区 BEST4★

1位	旭区 (46.63歳)
2位	南区 (46.46歳)
2位	栄区 (46.46歳)
4位	磯子区 (46.33歳)

資料:「横浜市の人口～人口動態と年齢別人口」

年齢3区分別人口の推移



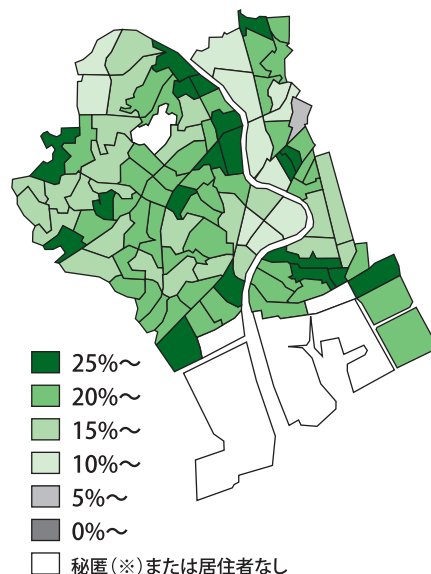
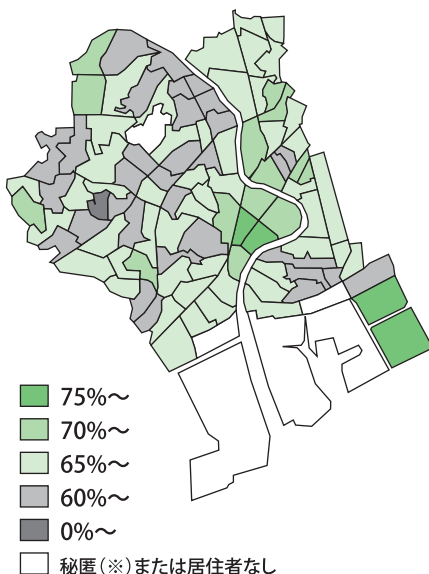
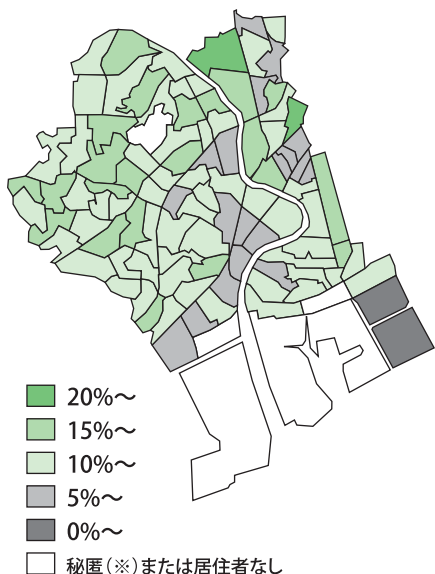
※昭和5年～平成22年については国勢調査の結果数値(各年10月1日現在)、平成26年は1月1日現在推計人口

年齢3区分別人口をみると、老年人口の増加が進んでおり、平成12年に0～14歳の年少人口と、65歳以上の老年人口の数が逆転したあと、近年その差が広がる傾向にあります。また、0～14歳の年少人口は、昭和30年以降減少していましたが、平成12年以降は、微増しています。



地図でみる鶴見 ～年少・生産年齢・老年の各人口比率～

住民基本台帳等(H26年3月31日現在)
※大黒ふ頭、扇島は省略しています。



年少人口(15歳未満)人口比率

生産年齢人口(15~64歳)人口比率

老年人口(65歳以上)人口比率

(※) データを示すことで個人が特定される恐れのあるものは「秘匿」としています。